

(広報資料)

平成28年度 交通事業決算概要

平成 2 9 年 8 月 2 日
京 都 市 交 通 局

担当: 交通局 企画総務部 財務課(863-5080)

自動車運送事業

1 決算概要

○ 一般会計に頼らない「自立した経営」を堅持

- ・ 集客施設へのアクセス強化や路線・ダイヤの充実等により更なるお客様の利便性向上を図るなど、「攻めの経営」をより一層推進し、一般会計からの任意補助金に頼らない「自立した経営」を引き続き堅持

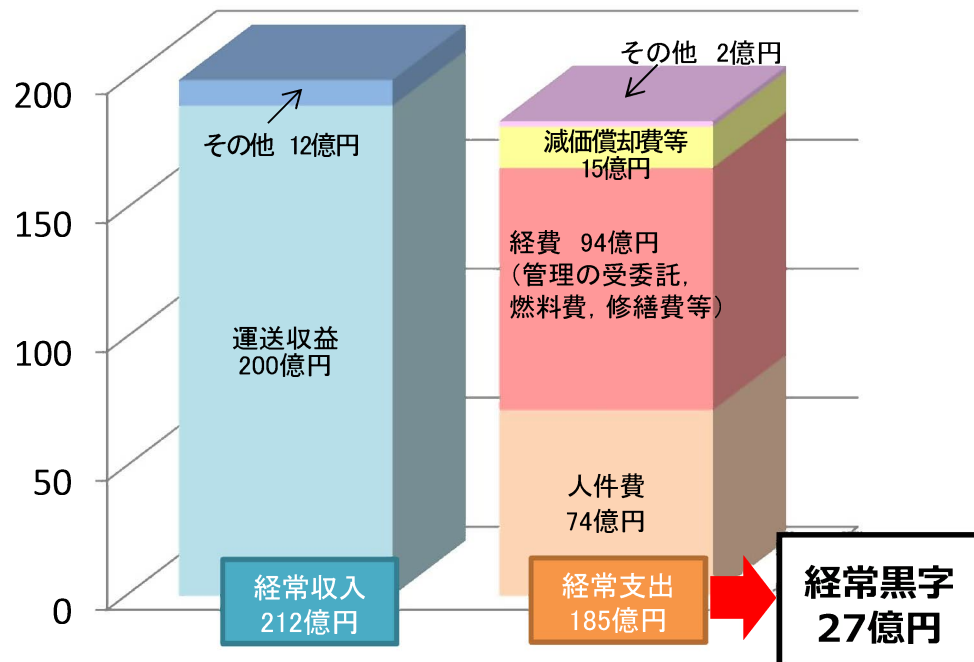
○ 1日当たりのお客様数は、前年度比9千6百人増の36万3千人

- ・ 定期券ご利用のお客様数の堅調な伸びとともに、梅小路公園や京都駅八条口への結節強化等により、前年度決算に比べ、3年連続で大幅な増加となる9千6百人の増客を実現した結果、運送収益は、前年度決算に比べ、5億49百万円の増収

○ 経常損益は、前年度を3億円上回る27億円の黒字を確保

- ・ お客様数の増等により、26年度以降3年連続で「自立した経営」を堅持し、3年間で最大となる黒字額

(1) 経常損益の状況



(2) 決算の主要数値

	27年度	28年度	差引増△減
在籍車両数	804両	808両	4両
走行キロ数 [1日平均]	85.3千km	86.6千km	1.3千km
経常損益	24億円	27億円	3億円
利益剰余金 (うち予定処分数)	34億円 (10億円)	61億円 (34億円)	27億円 (24億円)
年度末企業債残高	62億円	54億円	△8億円

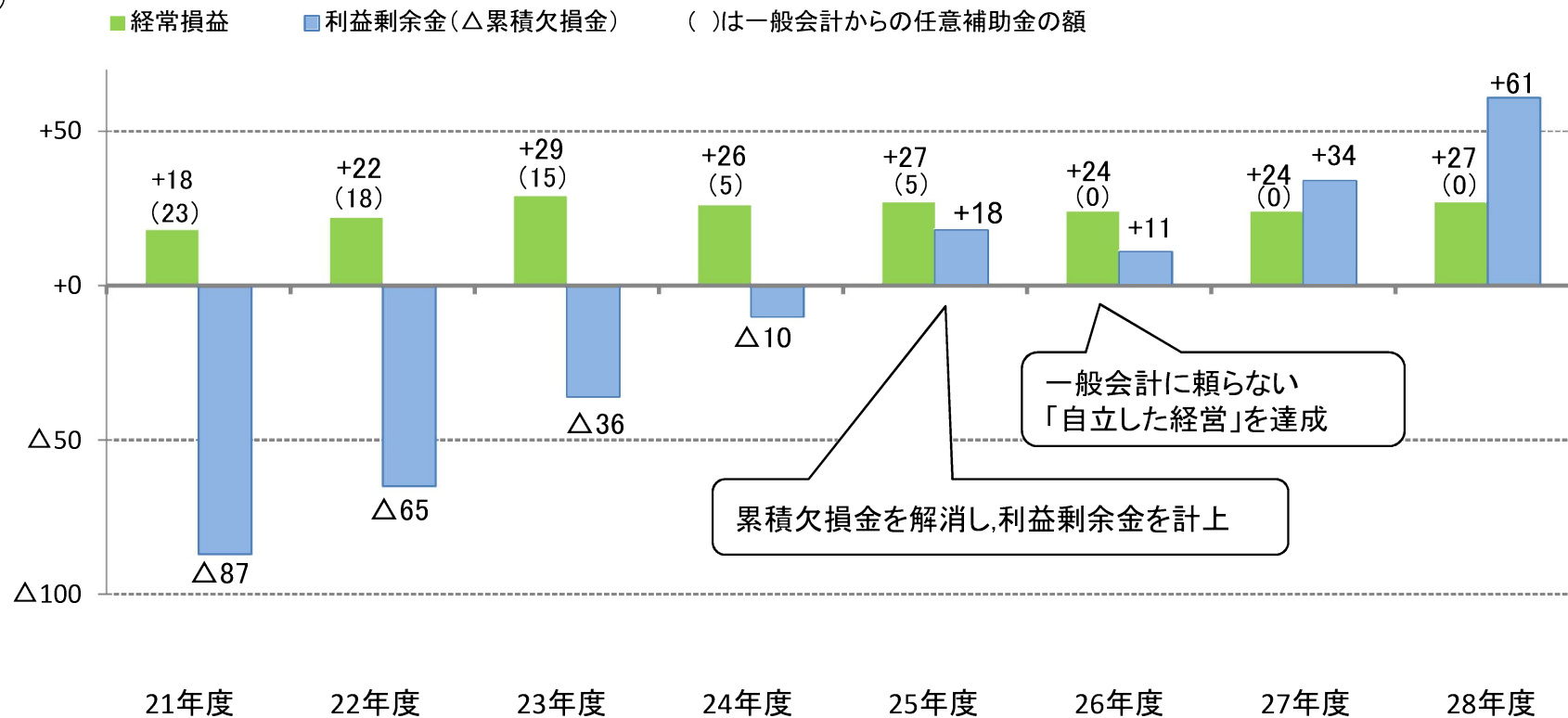
※ 予定処分数34億円は、28年度に活用する10億円(29年9月に処分議案を提出予定)及び29年度に活用する24億円(30年9月に処分議案を提出予定)である。

(3)お客様数の推移

(千人/日)								
年度	21年度	22年度	23年度	24年度	25年度	26年度	27年度	28年度
お客様数	311	314	314	321	326	341	353	363
対前年度増加数	-	3	0	7	5	15	12	10

(4)経常損益及び利益剰余金等の推移

(億円)



2 主要事項

(1) 路線・ダイヤの充実 (集客施設へのアクセス強化や混雑緩和等)

【28年3月実施の新ダイヤ】

- ア 京都鉄道博物館が開業した梅小路公園のアクセス強化
- イ 京都駅八条口駅前広場整備にあわせた路線・ダイヤの充実
- ウ 地域主体のモビリティ・マネジメントと一体となった路線・ダイヤの拡充(右京区南太秦学区等)



賑わいの増す梅小路公園へのバス
ルートの充実



京都駅八条口停留所への接続拡大

【29年3月実施の新ダイヤ】

- ア 混雑緩和に向けた主要系統の運行拡充等(西大路通や東山通を運行する204号, 205号, 206号の増便等)
- イ 通学系統の運行充実(立命館大学, 京都産業大学, 佛教大学関係系統)
- ウ 早朝・夜間時間帯の運行充実(回送バスの営業化により始発便の時刻繰上げ, 最終便の時刻繰下げを実施)
- エ 便利にご利用いただける路線・ダイヤ編成(京都岡崎ループを四条河原町に接続する経路変更など鉄道との乗継利便性の向上等)
- オ 地域主体のモビリティ・マネジメントと一体となった路線・ダイヤの拡充(北区柊野学区)

(2) 魅力あるバス待ち環境の創出

- ア 周辺地域などにおけるバス停上屋の整備(25箇所)
- イ インターネットを活用したバス接近表示器の設置(80箇所)
- ウ 地域の皆様や事業者等の方々のご協力によるバス待ち空間「バスの駅」の設置(10箇所)



バス停留所に新たに上屋を設置し、
快適なバス待ち空間を提供



「バスの駅」(久我御旅町)

(3) 安全運行の推進

- ア 車両ヘッドライトのLED化等による夜間視認性の向上
 - イ 全運転士が参加するグループワーク重視の安全運転研修の実施
- ⇒有責事故件数のさらなる削減(27年度:90件→28年度:84件)
※10万km当たり 27年度:0.288件 → 28年度:0.266件(△7.8%)

(4) お客様サービスの拡充等

- ア 上賀茂・西賀茂地域の均一運賃区間拡大(29年3月実施)
- イ IC定期券及びICカードによる乗継割引の導入(29年4月運用開始)
- ウ 更新車両(43両)は混雑緩和のためラッシュ型車両とし, 車内の案内モニターを中央部に増設



通常のバスより, 車両後部の通路幅が
広いラッシュ型車両(車内)

3 財政状況（前年度決算からの増減）

（税抜額）

区 分		27年度決算(A)		28年度決算(B)		差引増△減(B－A)	
		億	百万円	億	百万円	億	百万円
経常損益	営 業 収 益	204	07	209	83	5	76
	う ち 運 送 収 益	194	06	199	55	5	49
	営 業 外 収 益	3	71	2	25	△ 1	46
	う ち 一 般 会 計 補 助 金	1	04	1		△ 1	03
	う ち 長 期 前 受 金 戻 入	2	16	1	83	△	33
	収 入 計	207	78	212	08	4	30
	営 業 費 用	181	83	183	01	1	18
	う ち 経 常 人 件 費	68	83	70	37	1	54
	う ち 退 職 給 付 引 当 金 繰 入 額	3	01	3	81		80
	う ち 経 費 (管理の受委託・燃料費・修繕費等)	93	76	93	52	△	24
	う ち 減 価 償 却 費 等	16	23	15	31	△	92
	営 業 外 費 用	2	14	2	20		6
	支 出 計	183	97	185	21	1	24
	差 引	23	81	26	87	3	06
特 別	損 益		0		0		0
再	差 引 (純 損 益)	23	81	26	87	3	06
利 益	剰 余 金	34	39	61	26	26	87
	(う ち 予 定 処 分 額)	10	58	34	39 ※	23	81)
資 本 的 収 支	収 入	12	58	5	77	△ 6	81
	う ち 企 業 債	10	17	4	81	△ 5	36
	う ち 補 助 金		93		53	△	40
	支 出	28	04	34	35	6	31
	う ち 建 設 改 良 費	16	53	21	86	5	33
	う ち 企 業 債 償 還 金	9	51	12	49	2	98
	差 引	△ 15	46	△ 28	58	△ 13	12
資 金	剰 余 額	29	65	41	72	12	07
年 度 末	企 業 債 残 高	61	49	53	81	△ 7	68

※ 予定処分額3,439百万円は、28年度に活用する1,058百万円(29年9月に処分議案を提出予定)及び29年度に活用する2,381百万円(30年9月に処分議案を提出予定)である。

高速鉄道事業

1 決算概要

○ 1日当たりのお客様数は、経営健全化計画に掲げた5万人増客目標を2年前倒して達成

- 「地下鉄5万人増客推進本部」の体制による全庁を挙げた取組の推進や市民の皆様のご理解とご協力の下、オール京都で推進している公共交通優先の「歩くまち・京都」の取組の推進などにより、平成21年度の32万7千人から5万2千人増の37万9千人となり、経営健全化計画に掲げた平成30年度の5万人増客目標を2年前倒して達成。運輸収益は前年度比5億円の増収

○ 経常損益は、16億円の黒字

目標：375千人/日

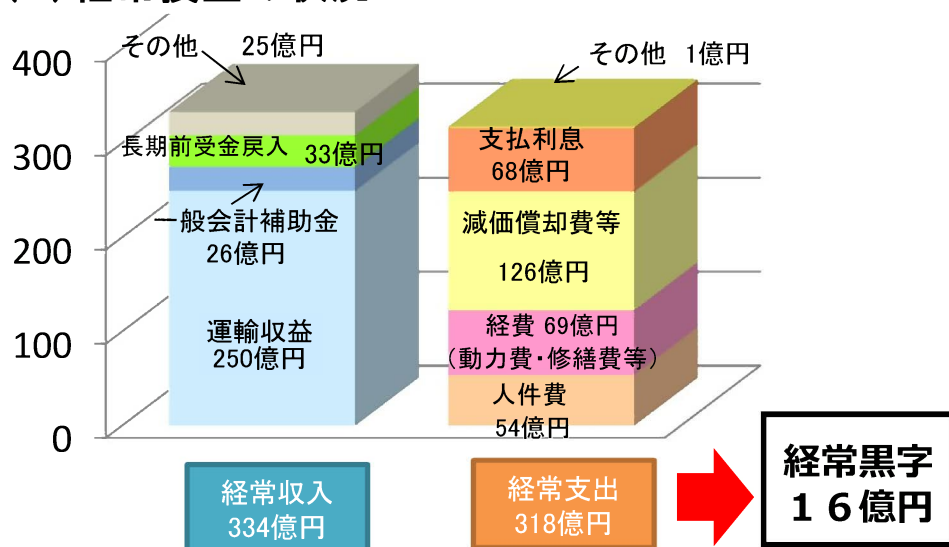
- 開業した昭和56年度以来の黒字となった前年度に引続き、2年連続で黒字を計上（一般会計からの補助金26億円を含む）

○ 全国地下鉄唯一の健全化団体からの脱却へ展望は見えつつも、依然、厳しい経営状況

- 平成28年度は財政健全化法に定める資金不足はないが、平成29年度に一般会計補助金収入が減少し、資金不足比率は経営健全化基準の20%を上回ることが見込まれるため、安定的に20%を下回る見通しが立つまで、経営健全化団体を継続
- 企業債等残高が3,764億円、累積資金不足も309億円にのぼり依然、厳しい経営状況

ピーク時 平成20年度：4,922億円

(1) 経常損益の状況



(2) 決算の主要数値

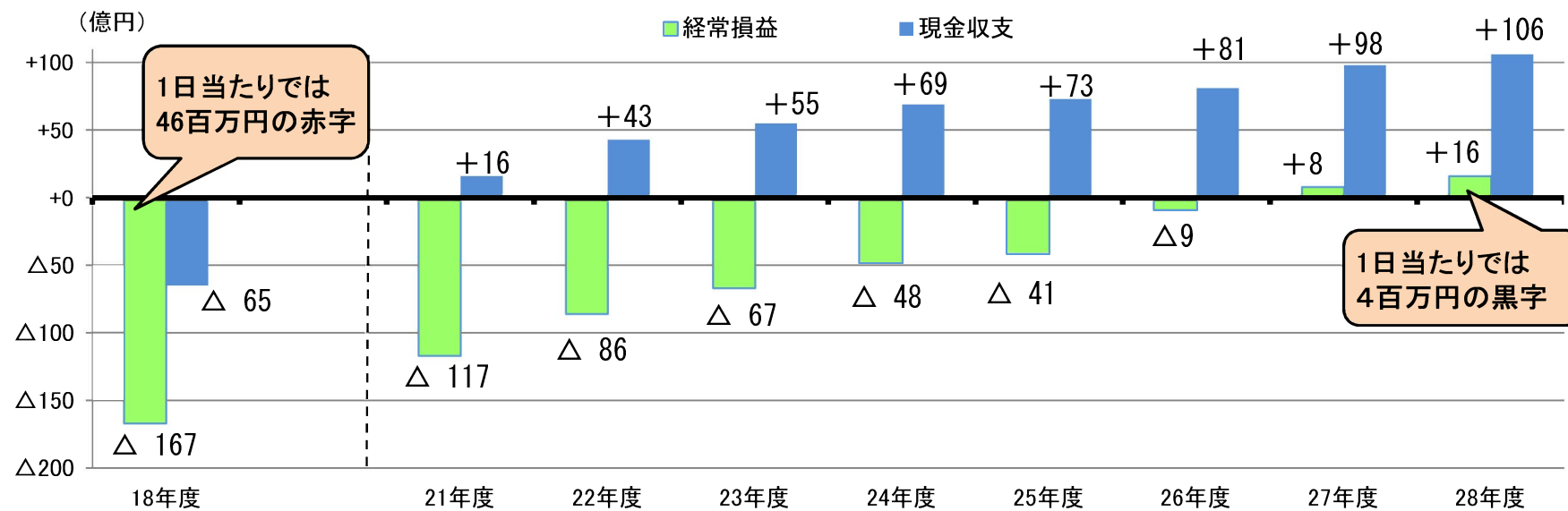
	27年度	28年度	差引増△減
在籍車両数	222両 [37編成]	222両 [37編成]	—
走行キロ数 〔1日平均〕	57.0千km	57.1千km	0.1千km
経常損益	8億円	16億円	8億円
現金収支 (償却前損益)	98億円	106億円	8億円
資金不足比率	—	—	—
年度末企業債等残高	3,911億円	3,764億円	△147億円
累積資金不足	309億円	309億円	—

(3)お客様数の推移

(千人/日)

年度	21年度	22年度	23年度	24年度	25年度	26年度	27年度	28年度
お客様数	327	330	334	339	348	359	372	379
対前年度増加数	—	3	4	5	9	11	13	7

(4)経常損益等の推移



2 主要事項

(1) お客様増加策

「地下鉄5万人増客推進本部」の体制の下、全庁を挙げた、地下鉄開業35周年・国際会館50周年記念合同イベント(28年7月)をはじめとした駅周辺の集客イベントの開催などの404件のお客様増加策



地下鉄開業35周年・国際会館50周年合同イベント

(2) 駅ナカビジネスの積極的展開

「コトチカ京都」の増床拡充(29年3月開業)など



コトチカ京都(南エリア)

【新店舗一覧】



5万人増客目標を2年前倒して達成
(1日当たりお客様数379千人)

年間収入額
9億57百万円
(前年度比
76百万円増)

(3) 安全対策等

ア 烏丸線駅ホーム端への注意喚起ラインの設置
(可動柵未設置の12駅)

イ 京都府視覚障害者協会や京都ライトハウス、民間鉄道事業者等との共同啓発活動の実施(四条駅、京都駅等)



ホーム端注意喚起ライン



共同啓発活動

(4) お客様サービスの向上

ア ICカード利用の環境整備(IC定期券及びICカードによる乗継割引の導入や全改集札機のICカード対応完了など)

イ 無人改札口へのIC対応型多機能インターホンの設置
(京都駅、四条駅。29年3月)

ウ 京都駅のエレベーター(南改札口)の増設やトイレのリニューアルなど



京都駅エレベーター(南改札口)増設



京都駅トイレのリニューアル

(5) 一般会計からの支援

経営健全化対策出資金の受け入れ(59億円)

3 財政状況（前年度決算からの増減）

（税抜額）

区 分		27年度決算(A)		28年度決算(B)		差引増△減(B－A)	
経常損益	営 業 収 益	億 268	百万円 97	億 274	百万円 07	億 5	百万円 10
	う ち 運 輸 収 益	245	22	249	60	4	38
	営 業 外 収 益	63	70	60	16	△ 3	54
	う ち 一 般 会 計 補 助 金	29	39	26	45	△ 2	94
	う ち 長 期 前 受 金 戻 入	33	74	33	25	△	49
	収 入 計	332	67	334	23	1	56
	営 業 費 用	246	48	249	42	2	94
	う ち 経 常 人 件 費	50	01	51	52	1	51
	う ち 退 職 給 付 引 当 金 繰 入 額		41	2	46	2	05
	う ち 経 費（動 力 費・修 繕 費 等）	69	55	69	02	△	53
	う ち 減 価 償 却 費 等	126	51	126	42	△	09
	営 業 外 費 用	77	71	68	73	△ 8	98
	支 出 計	324	19	318	15	△ 6	04
	差 引	8	48	16	08	7	60
現 金 収 支		97	51	105	88	8	37
特 別 損 益			0		0		0
再 差 引（純 損 益）		8	48	16	08	7	60
△ 累 積 欠 損 金		△3,093	22	△3,077	14	16	08
資 本 的 収 支	収 入	286	00	256	42	△ 29	58
	う ち 健 全 化 対 策 出 資 金	72	73	58	78	△ 13	95
	支 出	392	89	367	28	△ 25	61
	う ち 建 設 改 良 費	103	58	90	56	△ 13	02
	う ち 企 業 債 償 還 金	264	36	251	17	△ 13	19
差 引		△ 106	89	△ 110	86	△ 3	97
△ 累 積 資 金 不 足		△ 309	18	△ 309	18		0
資 金 不 足 比 率		—		—		—	
年 度 末 企 業 債 等 残 高		3,910	69	3,763	84	△ 146	85